広報

まくべつ

わたしたちのまち
（昭和62年３月１日現在）

人　口	21,739	(+24)
男	10,649	(+17)
女	11,090	(+ 7)
世帯数	6,687	(− 4)

一人のうごき（２月中）

転入	73人	転出	65人
出生	19人	死亡	3人

生きる喜びを創造するまち・幕別町（新総合振興計画）

新和で培ったたくましい心を誇りに

82年間の歴史を誇る新和小学校の閉校式とお別れ会が３月20日、同校体育館で行われました。お別れ会では、最後の卒業生となった渋谷満君を含む10人の子供たちが合唱や器楽演奏を披露しました。

新学期からは渋谷君は幕別中学校に、ほかの９人の児童は幕別小学校に、それぞれ新和で培ったたくましい心を誇りに通学します。

62年 4

No.423

●発行・幕別町役場 幕別町本町130番地 ☎(0155)54−2111 ●編集・企画調整課広報広聴 ☎内線348 ●印刷・ソーゴー印刷

節減合理化を強調

昭和62年度の予算が決まる

町長・町議選を控え骨格予算で

投資的事業は6月定例議会に

昭和六十二年度の町づくりに使うお金は、一般会計・特別会計合わせて、百十億八千六百七万七千円です。新年度の予算編成は、町長および町議会議員の改選期に当たっていることから、骨格予算として提案され、定例第一回町議会で議決されました。

投資的事業の予算は、六月に開催される議会に提案されることになりますので、その後の広報でお知らせします。

昭和六十二年度の予算を決める定例第一回町議会が三月九日から三月二十四日までの十六日間を会期に開かれ、統一地方選挙の年でもあることから、骨格予算を提案し議決されました。

新年度の予算は、歳入面では町税、地方交付税が国内経済の動向からして、大きな伸びが期待できない一方、歳出面では義務的経費の増大、住民の行政要望の増大・多様化により、これまでにない厳しい財政状況にあります。

経常経費の一層の節減合理化を図りながら、限られた一般財源の中で、町民の皆さんの要望にどのように応えていくかが大きな課題になっています。

六十二年度の予算は、一般会計六十億六千九百五十七万二千円、九特別会計五十億一千六百五十万五千円、合わせて百十億八千六百七万七千円と決まりました。これを六十一年度当初予算と比較しますと、骨格予算という性格から、一般会計は一八・八%の減、特別会計は九・五%の増、全体では八%の減となります。

また、町財政の主要な財源である町税は十三億七千二百六十一万三千円を見込み、六十一年度と比較して三・八%の伸びとなっています。

多様化する町民の皆さんの要望を実現するためには、国や道、そして皆さんが納められたお金だけでは十分でありません。そこで国や金融機関などからお金を借りた（町債という）、町の貯金である財政調整基金から繰り入れたりして事業を行っています。

これらを基調とした骨格予算ですが、町税の伸び悩みや国からの補助金の削減、借金返済の増加などで一段と厳しい状況です。

一般会計予算のうち、投資的事業で当初予算に計上されているのは、補助事業では、中里地区農用地集団化事業、公共育成牧場整備事業、相川北地区農道整備事業、農村総合整備モデル事業の糠内飲雑用水の調査費、明野ヶ丘公園整備事業、公営住宅建設事業（寿町・八戸）など約二億七千万円です。

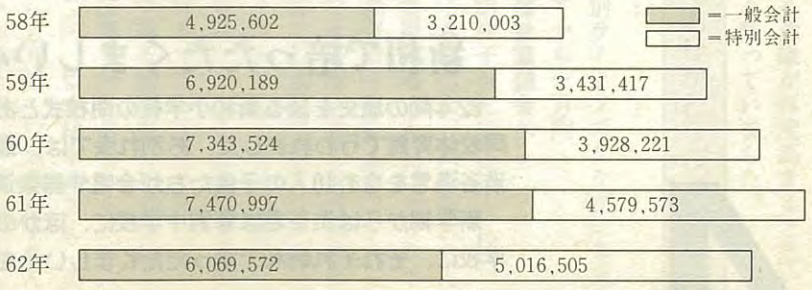
単独事業では、町有施設水洗化事業（青少年会館ほか）、町有林造成事業、都市環境整備事業など合わせて一億三千万円になります。

このほかの投資的事業は、六月定例議会に提案されることになっています。

特別会計の事業では、公共下水道会計については、札内地区の十勝川流域関連公共下水道の事業が大部分で、昭和六十五年供用開始に向けて、札内中継ポンプ場の建設、汚水幹線及び枝線の整備などで約六億五千六百万円が計上されています。

土地区画整理事業特別会計では、幹線道路の改良・舗装（総延長一千二十八㍍）や植栽工事、区画道路の改良・舗装（総延長五千六百四十二㍍）で約六億六千五百万円が計上されています。

過去5年間の当初予算額　（単位：千円）



※58年・62年は骨格予算

経常経費の一層の

特別会計（単位：千円）

科目	本年度予算額	前年度予算額	比較
国民健康保険特別会計	1,128,742	1,136,187	△ 7,445
老人保険特別会計	1,003,022	959,073	43,949
簡易水道特別会計	20,035	17,166	2,869
飲料水供給施設特別会計	7,203	8,929	△ 1,726
営農用水道特別会計	10,454	8,228	2,226
公共下水道特別会計	1,119,702	970,054	149,648
土地区画整理事業特別会計	1,007,235	785,868	221,367
国民宿舎事業会計	324,088	336,185	△ 12,097
水道事業会計	396,024	357,883	38,141
合計	5,016,505	4,579,573	436,932

一般会計（単位：千円）

歳入

科目	本年度予算額	構成比	前年度予算額	比較
地方交付税	2,802,997	46.2%	2,802,491	506
町税	1,372,613	22.6	1,322,102	50,511
諸収入	641,518	10.5	512,678	128,840
譲与税・交付金	255,600	4.2	252,600	3,000
道支出金	243,199	4.0	449,070	△ 205,871
町債	173,900	2.9	721,100	△ 547,200
使用料・手数料	167,853	2.8	173,088	△ 5,235
国庫支出金	162,105	2.7	462,779	△ 300,674
繰入金	100,000	1.6	300,000	△ 200,000
分担金・負担金	90,540	1.5	399,815	△ 309,275
その他	59,247	1.0	75,274	△ 16,027
合計	6,069,572	100.0	7,470,997	△1,401,425

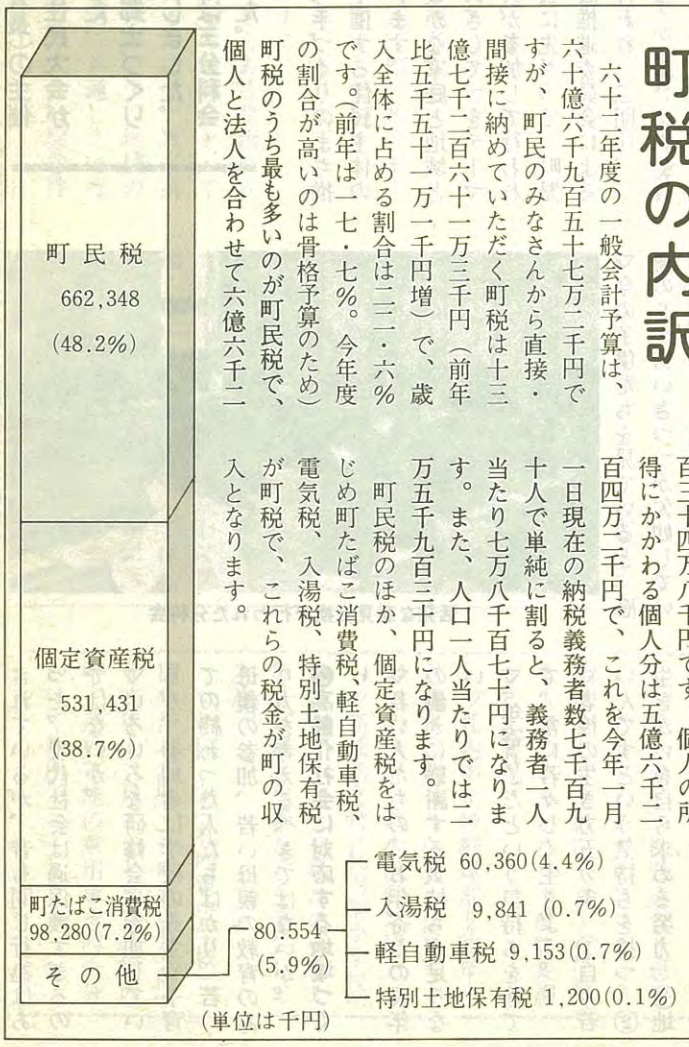
歳出　（単位：千円）

科目	本年度予算額	構成比	前年度予算額	比較
公債費	1,117,843	18.4%	1,189,869	△ 72,026
民生費	971,200	16.0	1,174,937	△ 203,737
土木費	920,916	15.2	1,541,691	△ 620,775
議会・総務費	905,104	15.0	836,029	69,075
教育費	683,957	11.2	807,096	△ 123,139
農林業費	493,316	8.1	1,058,472	△ 565,156
消防費	331,660	5.4	321,583	10,077
衛生費	327,824	5.4	358,224	△ 30,400
商工費	278,488	4.6	160,902	117,586
労働費	10,575	0.2	17,194	△ 6,619
その他	28,689	0.5	5,000	23,689
合計	6,069,572	100.0	7,470,997	△1,401,425

町税の内訳

六十二年度の一般会計予算は、六十億六千九百五十七万二千円ですが、町民のみなさんから直接・間接に納めていただく町税は十三億七千二百六十一万三千円（前年比五千五十一万一千円増）で、歳入全体に占める割合は二二・六％です。（前年は一七・七％。今年度の割合が高いのは骨格予算のため）町税のうち最も多いのが町民税で、個人と法人を合わせて六億六千二百三十四万八千円です。個人の所得にかかわる個人分は五億六千二百四万二千円で、これを今年一月一日現在の納税義務者数七千百九十人で単純に割ると、義務者一人当たり七万八千百七十円になります。また、人口一人当たりでは二万五千九百三十円になります。

町民税のほか、個定資産税をはじめ町たばこ消費税、軽自動車税、電気税、入湯税、特別土地保有税が町税で、これらの税金が町の収入となります。



活発に意見を交換

第10回「明るいまちづくり」住民大会

町手づくりのまち推進委員会（高橋次郎会長）の主催により、第十回幕別町「明るいまちづくり」住民大会が三月八日、札内福祉センターで開かれました。

今回のテーマは、「心豊かな家庭と地域と郷土づくりを目指して」で、約百二十人の町民が参加しました。

開会式に続いて午前中は講演、午後からは三分科会に分かれて、活発な意見交換が行われました。

今回で10回目を迎えた「明るいまちづくり」住民大会

この大会は、明るく豊かな町民生活を確立して、まちの活性化を図り「住みよい活力のあるまち」をつくるため、日常生活の中で考えていることなどを多くの人たちと語り合い、「生きる喜びを創造するまち幕別町」を創り出そうとするものです。

昭和五十三年に第一回大会が開催され、今回で十回目を迎えました。第一回から第五回までは教育委員会が主催していましたが、第六回大会から〝手づくりのまち推進委員会〟が主催する住民主体の大会になっています。

今回は、「心豊かな家庭と地域と郷土づくりをめざして」をテーマに、約百二十人が参加して行われました。開会式に先だって、町児童生徒健全育成推進委員会による善行賞表彰が行われ、二団体、一個人、一グループが受賞しました。

開会式に続いて、北海道新生活運動協会推進委員の横沢厚彦さん（札幌市在住）が「これからの地域づくり運動と住民の役割」と題して講演しました。佐々木孝三弦道支部の中村実さんらによる三味線演奏のアトラクション、昼食をはさんで、午後からは「明るい家庭づくり」「資源の回収と再成」「緑と花いっぱい運動」などについて三つの分科会で活発な議論が繰り広げられました。

第1分科会

◆明るい地域社会づくり

地域ぐるみで子供たちの育成を

❶明るい家庭づくりと青少年の健全育成

▽今の子供たちを見ていると「感謝の心・あいさつ」が欠如している。心を育てる取り組みが必要。そのためには、まず大人が自分自身の態度や行いを考えてみることが大切。

▽昔、子育てをするとき「絶対にしてはならないこと、しなければならないこと」を教えた。「責任感」を育てることが大切。

▽子供は家庭・学校だけではなく地域で育てる意識が必要。札内中央町公区では廃品回収を子ども会とともに取り組み、その益金で大人と子供がいっしょにレクリエーションを楽しんでいる。

▽子供たちは大人の姿を見て育っている。大人は「自分の考え」をもっと大切にするべきだ。

▽子供の「暴力」がクローズアップされているが、昔も同じ行為はあった。現代社会は過保護すぎるのではないか。

▽いろいろな研修会に参加しているが、参加者は学校の先生や子育ての終わった人たちばかり。若い母親の参加、若い母親の教育のあり方を考えるべきではないか。

❷高齢化社会に対応する地域づくり

▽若い人たちの、お年寄りの長年の働きに感謝する気持ちが足りない。

▽「年寄り」だという気持ちを捨てて、常に若々しく生きよう。

▽老後の生き方五カ条　①自ら若いんですという気持ちを持つ　②生きがいを自ら求める努力　③地域社会の中で役立っているという自信と行動　④良き友人をもつ　⑤老夫婦仲良く

活発な意見交換が行われた分科会

第2分科会

◆美しい生活環境づくり

花いっぱい運動の実践を

❶空カン等の散乱防止、クリーン作戦

▽捨てる人もいれば、拾う人も必要。こんな気持ちで空カン拾いをしている。

▽キャンプや旅行をする時などは、ゴミ袋を準備し、ゴミを持ち帰るようにしている。

▽町内で清掃日を決め実践したらどうだろうか。

▽子供の時から実践したことは身

につく。
▽家庭教育の充実が必要だ。

❷緑と花いっぱい運動

▽町内で花の種を配布している。美しい花が咲き、住民の心がなごんでいる。
▽札内・幕別間に木を植えたらどうか。
▽ニッタの森を公園にしたらどうか。
▽どこの町でも人の集まる所は、美しい花壇が作られている。本町でも手づくりの町推進委員会を中心に実践できないか。住民運動は話し合いばかりでなく、実践することである。

第3分科会

◆新しい生活価値感づくり 一人ひとりが 新生活運動に理解を

❶形式的生活習慣の見直しと新生活運動

▽結婚祝賀会が年々派手になり、経費がかかりすぎる。
▽出席者が多くなり、町内の施設を利用できない。
▽案内の人数が多すぎるのではないか。
▽帯広の式場でも三千八百円会費で祝賀会を行った事があり、発起人が交渉し、それなりにできた。
▽職場でも新生活運動に取り組んできた。（会費二千五百円以内、二時間以内、引き出物なし）
▽新北町、南幕別、途別では新生活運動を実践しているが、全戸に浸透されてなく統一が困難である。
▽ある町では香典三千円以内、生花の替わりに供花紙を使用し、差額を遺族へ渡している。
▽供花紙は一市八町一村が使用している。町内では南幕別、札内農協、途別などで使用しているが、この委員会で全町的に利用するよう検討してほしい。
▽新生活運動の実践については、一人ひとりが〝自分ぐらいはいいだろう〟という安易な考えを改めることによって本物になるのではないだろうか。

◇　◇

分科会での意見の一部を紹介しました。これらの意見は、私たちが直面している地域課題です。今後は、この貴重な意見を意見だけに終わらせることなく、各地域がよりよい〝まちづくり〟のために、住民運動などの活動へ展開させていくことが大切ではないでしょうか。

講演

これからの地域づくり運動と住民の役割

北海道新生活運動協会推進委員　横沢厚彦

町づくり運動ということがよくいわれています。

町にはいろいろな要求を持っている人が住んでいます。解決してほしいこと、改善してほしいこと、実現してほしいことなどいろいろです。新しい価値のある生活を営むために、提案を持っている人もいます。しかし、その要求が個人の段階でとどまっている間は、町づくり運動の中では生きてきません。要求を地域全体の要求に変えていく必要があります。個人の持っている要求が、地域全体の人々の要求に変わらない限り、地域ぐるみの要求を具現化していく運動には発展していきません。地域全体の人に支持される提案でなければ町づくりには活用されないのです。したがって、私たちが日常生活の中で考えなければならないことは、個別に持っている要求や提案を、いかにして地域全体の要求・提案に変えていくかということです。そのためには、要求や提案をみんなで考えたり話し合ったりしていく場所をつくっていかなければなりません。

町づくり運動のねらいというのは、問題をみんなの力で解決し住みよい町をつくっていくということにあるのはもちろんですが、そのために、みんなで話し合ったり考えたりする場所をつくることが極めて大事な一つの要素です。

それでは、これからの町づくり運動はどう進めていったらいいかということです。まず、地域にどのような問題があるかを一つ一つ拾い上げます。問題が上がったとしても、その問題全部に取り組むことは不可能ですから整理をしなければなりません。そこで三つのふるいにかけます。

一つは、たくさんある問題の中で、どの問題がその地域にとって極めて重要であるかです。次に共通性があるかどうかです。地域の人たちの日常生活に共通している問題であるかどうか。次に緊急性というふるいにかけます。今すぐ解決しなければならないかどうか。この三つのふるいにかけて残ったものに取り組むんです。次の段階では、問題の原因、どうしてこの問題がおきたのか確かな原因を探ることが必要です。そして対策をたて、問題の原因を排除していく方法をみんなで考えていきます。実施の段階では、みんなが参加できて成果のあがるものを選択しなければなりません。

このように経過を大事にした運動でなければなりません。こうした経過の中で、人と人との交流が深まり、社会的連帯意識が向上していきます。決して機能しない住民組織であってはなりません。必要に応じて常に話し合いが行われるのが、望ましい地域社会ではないでしょうか。

※講演は内容の一部を抜粋したものです。

善行賞受賞者

町児童生徒健全育成推進委員会による善行賞受賞者は次のとおりです。

▽札内南小学校児童会＝思いやりの心を表わすボランティア活動として全校区クリーン作戦、老人へのいたわり、小動物愛護などを実践。
▽札内中学校野球部＝昨年十月五日に起きた白馬ヶ丘スキー場での火災で消火活動に協力。
▽高橋朋之君（札内南小学校）＝リーダーとして級友の信頼が厚く、掃除当番などを率先して実施。
▽柏国一君（札内東中学校）、田中浩君（同）、赤座貴広君（同）＝昨年十二月二十七日、吹雪の中、通行不能の乗用車を四十分かけて救出。

農家戸数は依然として減少傾向

1戸当たりの耕地面積は16.9ヘクタールに

61年度農業基本調査の結果（概数）

より充実した農業行政を行うための資料となる「六十一年度農業基本調査」が二月一日現在で実施され、その結果（概数）がまとまりました。

農家戸数は依然減少傾向が続き、八百八十一戸で前年に比べ十戸の減となっています。農業従事者は五人増の二千百六十五人です。

また、農家一世帯当たりの平均耕地面積は、前年度より〇・二㌶増え、十六・九㌶になりました。

●農家戸数と農業従事者数

農家戸数は八百八十一戸。これを専兼業別でみますと、専業農家は六百四十四戸（前年六百四十五戸）で全体の七三・一％を占め、農業のかたわら他の仕事をしている人がいる一種兼業農家が百七十六戸（前年百九十二戸）で二〇％、農業以外の仕事に就き、片手間で農業に従事している二種兼業農家は六十一戸（前年五十四戸）で六・九％になっています。（図―一参照）

また、世帯員数は四千六十人（前年四千百二十人）で一世帯当たり四・六人となっています。このうち農業に従事している人は、二千百六十五人（一戸当たり二・五人）で、従事率は五三％となっています。これを、十二年前の昭和五十年と比較してみますと、世帯員数で一千百三十三人、従事者数で一千百八十三人減となっています。

●耕地面積

耕地面積は一万四千八百八十七・八八㌶で前年に比べ三十一・八四㌶の増となりました。この内訳をみますと、田が十八・八㌶で前年に比べ五・五㌶の減、畑は一万四千八百六十九・〇八㌶で前年に比べ三十七・三四㌶の増となっています。また、一世帯当たりの平均耕地面積は十六・九㌶になります。図―二からも分かるとおり、一世帯当たりの平均耕地面積は年々増え続け、昭和四十年に比べると七・七㌶増えています。その反面、農家戸数は減少を続け、昭和四十年よりも六百四十二世帯減りました。

●家畜

乳用牛を飼育している農家は一七〇戸（前年百八十九戸）、飼育頭数は六千五百十頭（前年六千六百九十頭）で、一戸当たり平均で三十八・三頭（前年三十五・四頭）になっています。

肉用牛は、六十戸（前年六十三戸）一千六百八十三頭（前年一千三百六十七頭）で、一戸当たり平均で二十八・一頭（前年二十一・七頭）です。（表―一参照）

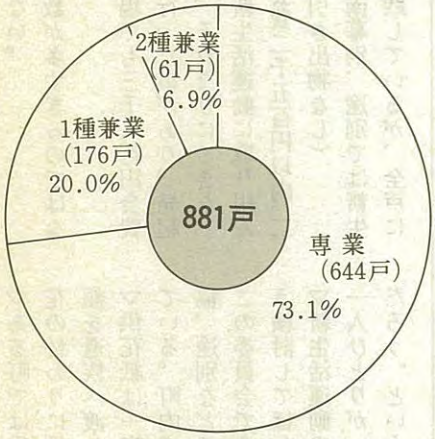


図-1　専兼業別農家戸数

図-2 農家数と一世帯当たりの耕地面積

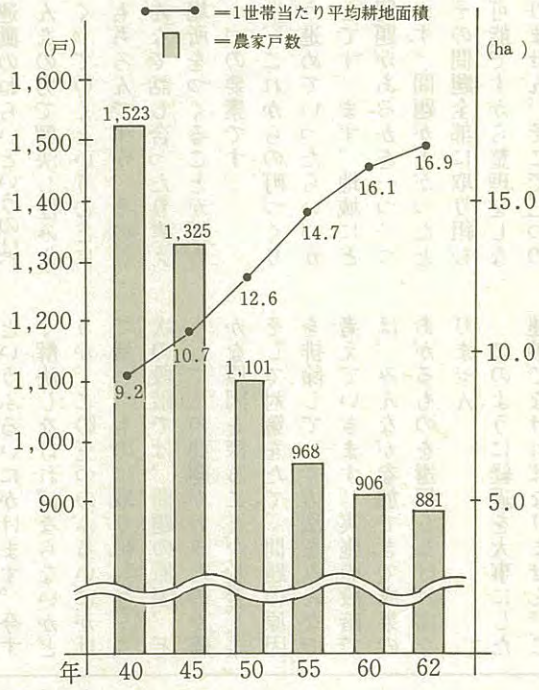


表-1 乳用牛及び肉用牛の飼育状況

区分＼年	40年 戸数	40年 頭数	45年 戸数	45年 頭数	50年 戸数	50年 頭数	55年 戸数	55年 頭数	60年 戸数	60年 頭数	61年 戸数	61年 頭数	62年 戸数	62年 頭数
乳用牛	618	3,328	613	5,805	417	6,797	258	7,277	196	6,741	189	6,695	170	6,510
肉用牛	2	6	32	378	67	1,136	81	1,566	69	1,383	63	1,367	60	1,683
農家1戸当り 乳牛	5.4		9.5		16.3		28.2		34.3		35.4		38.3	
農家1戸当り 肉牛	3.0		11.8		17.0		19.3		20.0		21.7		28.1	

新和小

82年間の歴史に幕

別れ惜しみ閉校式

260人が出席し行われた閉校式

町立新和小学校（及川照己校長、児童十人）の閉校式が三月二十日に行われ、八十二年間にわたる同校の長い歴史に終止符が打たれました。

新和小学校は明治三十七年五月茂発谷簡易教育所として開設され、幾多の変遷を経て、昭和二十二年四月に現在の名称になりました。昭和十二年には百四十四人を数えた児童数も年々減少し続け、新年度は入学児童もなく、一、五年生を欠く二学級九人となることから、幕別小学校へ統合されることになりました。

閉校式は在校生、同窓生、歴代の教職員ら二百六十人が出席して行われました。校歌斉唱のあと、林町長が「母校の思い出は人々の心に脈々と語り継がれていくでしょう」と式辞を述べました。功労者、歴代校長、PTA会長らに町と閉校事業協賛会から感謝状が贈られ、及川照己校長のあいさつに続いて、最後の卒業生となった渋谷満君が新和小学校での楽しかった思いでをつづったお別れの言葉を述べ、〝螢の光〟の歌とともに八十二年間の同校の歴史に幕を閉じました。

出席者全員で雪の降る中、校舎をバックに記念写真を撮った後、お別れ会が行われました。出席者は児童たちによる最後の合唱や器楽演奏を聴きながら、母校の思い出を語り合っていました。

今後、同校の校舎は改修されて、青少年宿泊研修施設として利用されることになっています。

母校の思い出を語り合ったお別れ会

こんにちは ㉓

佐渡富士江（さどふじえ）さん（23歳）

相川760

▼たくぎん幕別特別出張所▲

新しい制服とともにフレッシュな気持ちで

入行したのが昭和57年ですからもう丸5年になりますね。これまでは内部で事務処理をしていたんですが、4月から窓口担当になりました。制服も新しくなったので、フレッシュな気持ちで頑張ります。

今年は行内の女子のリーダーになっているんです。新人も入行してきたのでチョッピリ緊張してますが、お客様には常に笑顔で接するよう心がけています。

コミュニティスポーツ

幕別町で生まれたパークゴルフ

グラウンドゴルフを改良 パークゴルフが誕生

幕別町で生まれたニュースポーツ・パークゴルフのシーズンがいよいよ近づいてきました。今月号からこの欄でパークゴルフについて掲載していきます。第一回目の今回は、パークゴルフの歴史について紹介します。

◇　◇

パークゴルフは以前グラウンドゴルフと呼ばれていたように、鳥取県泊村で生まれたグラウンドゴルフを改良して創案されたスポーツです。泊村のグラウンドゴルフは、文字どおり学校のグラウンドに鉄のリング（輪）を置き、その輪の中にいかに少ない打数でボールを入れるか競うものです。グラウンドですから平たんで障害物もありません。また、地面が固いのでちょっと力を入れて打つとボールはどこまでも転がっていってしまいます。

昭和五十九年に町教育委員会でこのグラウンドゴルフの用具を購入し、試用してみましたが今一つ面白味が足りません。そこで工夫して生まれたのがパークゴルフです。グラウンドゴルフと根本的に違うところは、グラウンドでなく公園（パーク）を利用している点です。殺風景なグラウンドでプレーするのと、緑豊かな公園でプレーするのでは空気のおいしさも違います。また、公園だと立木や坂、園路、側溝などの障害物があるため変化のあるコースの設定ができます。カップはボールが入った時に心地よい音がするように工夫されています。こうして生まれたパークゴルフが本格的に普及し始めたのは昭和六十年からで、六十一年四月に名称をグラウンドゴルフからパークゴルフに改称、六十二年九月にはパークゴルフ協会が設立され、現在、愛好者は町内だけでも五～六百人と推定されています。

コースは町内に四コースありますが、今年も一コース（九ホール）幕別運動公園に造成する予定です。十勝管内でも既にいくつかの町村で取り入れてるほか、道内はもとより全国各地から問い合わせが来ています。用具の方も、地元の新田ベニヤ工業がパークゴルフ専用のスティックとボールを製作しており、幕別町の一村一品にと期待が寄せられています。

まちのニュース

美しい調べを満喫

まくべつ町民芸術劇場の主催により第一回サロンコンサートが三月五日、札内福祉センターで開かれました。くつろいだ雰囲気の中で、バイオリンとピアノにより十五曲が演奏され、訪れた約百五十人の人たちは美しい調べに酔いしれていました。

幕別温泉で一日支配人

国民宿舎幕別温泉ホテルで3月8日、お年寄りによる「1日支配人」が行われました。この日1日支配人となったのは、廻渕茂さん、沢田留治さん、星亮さん、鈴木重次郎さん、奥田一一さん、高橋勇さんの6人で、無事業務を遂行しました。

無事を祈りサケの稚魚を放流

札内南小学校の6年生らが卒業を記念して、自分たちで飼育したサケの稚魚千匹を3月3日、途別川に放流しました。放流され川の中を元気よく泳ぐ稚魚に、子供たちは長旅の無事を祈っていました。

熱い声援に熱戦を展開

「第二回子ども会対抗綱引き大会」が三月十五日、トレセンで開催されました。幕別子ども会育成連絡協議会が、六年生のお別れ会と新入学児童の歓迎を兼ねて催したもので、お父さん、お母さんの熱い声援を受け、力の入った試合が展開されました。

続・幕別①　地のかたり

北の果ての地・稚内にもあった ヤムワッカとマクベツ

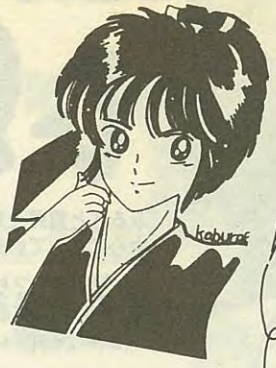
数年前、北の果てのまち稚内へ行った時、民家の壁に「ヤムワッカナイ」と書かれたプレートが貼られているのを見て驚いた。稚内はヤムワッカナイからきたものであったのだ。ヤムワッカナイとはアイヌ語のヤム(冷たい)・ワッカ(水の)・ナイ(川)である。幕別市街も駅名もかつてはヤムワッカ(止若)と呼ばれていたのである。

明治初年、初めて北海道の行政区画がされた時、幕別町には五つの村があった。その一つがヤムワッカビラ村(止若)で、後に字名や駅名になったのである。ヤムワッカビラとは「冷たい水の流れ出るところ」という意味で、猿別川を前にした丘の斜面からヤムワッカの流れ出ている止若と、オホーツク海に面した丘からヤムワッカの流れ出ている稚内は、まさに似た地形だったのである。

幕別市街にある幕別駅の駅名は、昭和三十八年までは止若駅となっていた。その改称には次のような経過があった。昭和二十七年幕別町議会で町名と駅名を同じにしようという決議がなされた。ところが、同名の駅が天北線にもあることが判明した。町長をはじめ町幹部や議会関係者の十年間にわたる陳情運動の結果、ようやく改称となった。陳情理由は①幕別町を代表する名にしたい、②止若駅周辺の銀行・官公庁出張所等は幕別の名を使用している、③荷物の着駅選定で天北線の幕別駅へ誤送される等があった。天北線幕別駅のある稚内市議会では、幕別町と国鉄側の要請を受け入れ、「恵北駅」と改称した。町では相手地区の好意に感謝し、集会所の建設資金として八十万円を贈った。

開拓以前から北の果ての稚内と、この十勝の地に全く似たヤムワッカとマクベツという地名があったのである。この巡り合わせは何かの因縁ででもあろうか。「恵北駅」の西側を「幕別川」が流れている。わが幕別町の旧途別川はかつて「幕別川」であった。マクベツまたはマクンベツはアイヌ語で、「山際を流れる・川」または「山の奥の方を流れる・川」となっている。むこうの川の流れとこっちの川の流れに、どこか似たところがあるように思えてならない。一度訪ねてみたいものである。(記・ふるさと館郷土史部会　小助川勝義)

みんなのページ



広報クイズ ①

500円の図書券が当たる

三つの答えの中から正しいものを選び、はがきに書いてお送りください。

❶62年度の幕別町の一般会計の予算額は
Ⓐ約40億円　Ⓑ約60億円　Ⓒ約80億円

❷次の税のうち町税でないものは
Ⓐ所得税　Ⓑ町民税　Ⓒ個定資産税

❸今年の3月1日現在の幕別町の人口は
Ⓐ20,739人　Ⓑ21,739人　Ⓒ22,739人

❹パークゴルフが生まれた町は
Ⓐ池田町　Ⓑ大樹町　Ⓒ幕別町

❺止若駅から幕別駅に改称になったのは
Ⓐ昭和38年　Ⓑ昭和48年　Ⓒ昭和58年

【応募方法】

★はがきに答えの記号(例①－Ⓐ)、住所、氏名、年齢と、ご意見ご要望、広報を読んで一言などを書き添えてください。

全問正解の人の中から、抽選で5人に500円の図書券をプレゼントします。応募は1人1通に限ります。ご意見などのほか、イラスト、漫画、詩、コントなども大歓迎です。イラストや漫画は黒色で濃くかいてください。

★あて先＝〒089-06　幕別町本町130　役場内・広報係

★締め切り＝4月15日（15日の消印有効）

緑保育所の卒園記念作品

お願いします

今月号から「みんなのページ」をもうけました。このページは皆さんからの投稿でつくるページです。クイズへの応募とともに、イラストや漫画、ご意見ご要望広報を読んで一言など何でも結構です。皆さんからのたくさんのお便りをお待ちています。よろしくお願いします。

ふるさとへの便り…⑬

故郷はどこにある

島（しま）　弘（ひろし）さん（47歳）
（東京都足立区）

私を育ててくれた故郷・幕別には亜麻があった。繊維を作る工場があった。遠い昔のことである。

今、全国各地で町や村に工場を誘致し、経済を発展させようと町長さんが頑張っている。私もそのような仕事に携わっている。わが故郷に是非、工場をと企業を歩き回っている。しかし、幕別ってどこにあるとたずねられる。自分しか知らない故郷をみんなでもっと売り込もう。昔あった亜麻を栽培し「亜麻の町幕別」という売り込みも一つの方法ではないだろうか。それが工場を呼び、故郷を発展させることになると思う。

（島弘さんは豊岡に在住の島政次郎さんの息子さんで、現在、北海道企業誘致東京事務所副所長）

多彩な催しに四百人が参加

第六回幕別町婦人まつり

町婦人団体連絡協議会（高橋ユキ会長）の主催により「第六回婦人まつり」が三月一日、町民会館で開かれました。今年のテーマは〝食生活・健康・そして文化を考える〟で、約四百人の婦人でにぎわいました。

開会式に続いて帯広畜産大学教授の美濃羊輔さんが「生物の世界における性の多様性について」と題して講演し、生物界の不思議な性について語りました。

今年で三回目を迎えた、手づくり料理コンテストには牛乳と地元産の農産物を素材にした料理四十点が出品され、好評な作品十点に賞が贈られました。

そのほか、一坪ショップ、バザー、健康相談や町内で活動している文化サークルの人たちによる作品展示、牛乳料理の試食会、ディスコダンスや幕別音頭の踊りの指導など多彩な催しが繰り広げられ、会場内は、婦人たちの熱気であふれていました。

400人の婦人でにぎわった婦人まつり

ひと ㉕

郷土史研究がライフワーク

ふるさと館郷土史部会の中心になっている

小助川勝義（こすけがわかつよし）さん

（あかしや町・44歳）

今月号からふるさと館郷土史部会による「続・幕別ものがたり」の連載が始まりました。糠内中学校で教鞭（べん）を執るかたわら、ふるさと館郷土史部会の中心となっているのが小助川勝義さんです。

◇

「郷土史に興味を持ち始めたのは昭和五十年ぐらいからです。特に理由はありませんが、専門が社会科の歴史だったからでしょうね。先人の生活に対する意欲とか工夫には、受け身の現代に生きる我々には学ぶべき点が多いと思います。印象に残っているのは、時代考証をし実際に先人の生活を体験したサバイバルスクールですね」

◇

「現在手がけているのは、幕別町内のアイヌ語の地名の解明と、十勝管内の仲間とやっている〝新十勝史〟の編集です。郷土史研究は自分のライフワークですね。

ふるさと館郷土史部会は毎月一回例会を開いています。今年は町内の民家の調査を企画しています。これから郷土史を勉強したい人も仲間になってほしいですね。これからの町づくりのためにも、特に若い人の参加を期待しています」

◇

昭和十八年一月に札幌に生まれる。五十三年に幕別に。奥さんと子供三人の五人家族。

〝つながったデー〟に感謝状

交通安全意識を高揚―帯広警察署から

幕別町民八千人余りが参加し、交通安全を訴えた〝つながったデー〟が昨年八月に実施されましたが、このほど、その実行委員会（木川拓二会長）に交通事故抑止に貢献があったとして帯広警察署から感謝状が贈られました。

この〝つながったデー〟は、町開基九十年記念事業の一環として行われたもので、幕別―札内間に町民八千六十七人が並んで手をつなぎ、ドライバーに安全運転を呼びかけるなど交通安全キャンペーンを繰り広げました。伝達式に出席した木川会長は「感謝状は炎天下の中で参加してくれた町民の皆さんがいただいたものです。これで交通安全に対する意識が再度高まると思います」と語っていました。

川島署長(右)から感謝状を受けとる木川会長(左)

ご寄付ありがとうございます

■町へ…

▽幕別ライオンズクラブ（金沢誠会長）から十万円

■社会福祉協議会へ…

▽武田祥子さん（幕別小学校）、宮本直子さん（同）、西田昌代さん（同）、桑原香織さん（同）から六千円　▽森原敬子さん（駒畠）から三万円　▽太平洋建設工業労働組合帯広支部（中村政信支部長）からひな人形セット（二十五万円相当、札内南保育所に）　▽町技能士会（稲上宣二代表）から二万二千七百八十四円　▽第五回幕別町社会福祉ふれあい広場実行委員会から六万六千五十二円　▽寺林幸雄さん（美川）から五万円　▽黒島若子さん（相川）から十万円　▽坂本博さん（新川）から二十万円

■老人クラブへ…

▽札内寿会老人クラブへ田辺まさのさん（西和）から三万円、森岡朝吉さん（中央町）から一万五千円　▽斉藤ときさんから宝町宝寿老人クラブへ二万円　▽寺林幸雄さん（美川）から美川老人クラブへ三万円　▽七島信雄さん（明野）から明野新川長寿会へ一万円

（二月十八日～三月十六日分）